

Asia Indicators

発表日: 2022年1月14日(金)

2021年の中国貿易総額は初の6兆ドルを突破 (Asia Weekly(1/7~1/14))

~世界経済の回復は中国輸出を押し上げるなか、貿易黒字額も過去最高を更新~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
1/7(金)	(台湾)12月輸出(前年比)	+23.4%	+26.7%	+30.2%
	12月輸入(前年比)	+28.1%	+30.6%	+33.8%
1/10(月)	(マレーシア)11月鉱工業生産(前年比)	+9.4%	+7.3%	+5.5%
1/11(火)	(フィリピン)11月輸出(前年比)	+6.6%	--	+2.0%
	11月輸入(前年比)	+36.8%	--	+25.1%
1/12(水)	(韓国)12月失業率(季調済)	3.8%	--	3.1%
	(中国)12月消費者物価(前年比)	+10.3%	+11.1%	+12.9%
	12月生産者物価(前年比)	+1.5%	+1.8%	+2.3%
	(インド)12月消費者物価(前年比)	+5.59%	+5.80%	+4.91%
1/14(金)	11月鉱工業生産(前年比)	+1.4%	+3.0%	+4.0%
	(韓国)金融政策委員会(政策金利)	1.25%	1.25%	1.00%
	(中国)12月輸出(前年比)	+20.9%	+20.0%	+22.0%
	12月輸入(前年比)	+19.5%	+26.3%	+31.7%

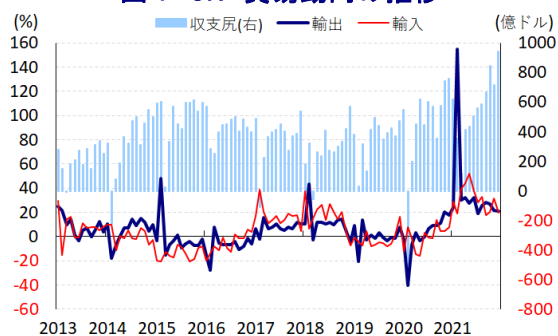
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REFINITIV 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[中国]~世界経済の回復は輸出を押し上げるなか、昨年通年の貿易額は初の6兆ドルを上回る水準に~

14日に発表された12月の輸出額は前年同月比+20.9%となり、前月(同+22.0%)から伸びが鈍化した。ただし、当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は5ヶ月連続で拡大しており、月次ベースの輸出額は過去最高となるなど、欧米など主要国を中心とする世界経済の回復を追い風に底入れの動きが続いている。財別では、ハイテク関連の輸出に堅調な動きがみられるなか、輸入した素材及び部材による加工組立関連の輸入額は過去最高を更新している上、ワクチンをはじめとする医薬品関連のほか、一般的な中国製品の輸出額も堅調に推移するなど、世界経済の回復による需要拡大の動きが輸出を押し上げている。国・地域別でも、米国やEU(欧州連合)など先進国向けは総じて底入れの動きを強めているほか、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染一服を受けた行動制限解除の動きを反映してASEAN(東南アジア諸国連合)などアジア新興国向けのほか、中南米やアフリカ向けなど新興国向けも総じて底堅い動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比+19.5%となり、前月(同+31.7%)から伸びが鈍化している。前月比も2ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど依然底堅い動きが続いている。財別では、輸出の堅調さを反映

して半導体をはじめとする素材及び部材関連の輸入額は拡大するなど需要が押し上げられている様子が見え始める一方、原油をはじめとする国際商品市況の調整の動きが輸入額を下押ししている。結果、貿易収支は+944.63億ドルと前月（+717.11億ドル）から黒字幅が拡大して月ベースの黒字額は過去最高更新している。通年の貿易黒字も+6764億ドルと過去最高を更新している。なお、昨年通年の輸出額は3.36兆ドルと初めて3兆ドルを上回る水準となったほか、輸入額も2.69兆ドルと過去最高を更新して総貿易額も6兆ドルを突破しており、新型コロナ禍からの世界経済の回復の動きが中国の貿易を押し上げたといえられる。

図1 CN 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[インド]～インフレ率は加速するも引き続き目標域で推移、生産活動は一進一退の展開が続いている模様～

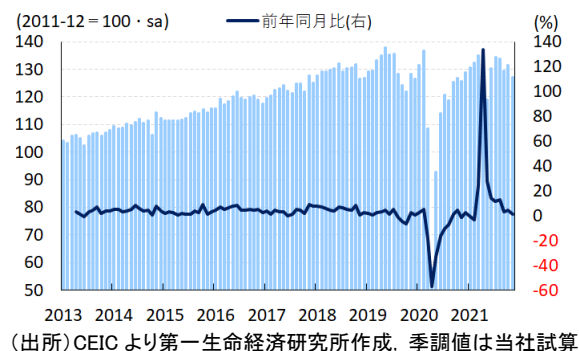
12日に発表された12月の消費者物価は前年同月比+5.59%となり、前月（同+4.91%）から加速しているものの、6ヶ月連続で中銀の定めるインフレ目標（ $4 \pm 2\%$ ）の範囲内で推移している。前月比は▲0.36%と前月（同+0.73%）から11ヶ月ぶりの下落に転じており、国際原油価格の上昇一服の動きを反映してエネルギー価格の上昇の動きが一巡しているほか、生鮮品を中心とする食料品価格は下落するなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が後退する動きがみられることが影響している。なお、当研究所が試算した食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は引き続き高止まりしており、前月比も上昇が続いている。エネルギー価格の上昇一服にも拘らず輸送コストに押し上げ圧力がくすぶるなか、幅広く財価格に押し上げ圧力が掛かる動きがみられるほか、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染一服による経済活動の正常化の動きを反映してサービス物価にも押し上げ圧力が掛かるなど、全般的にインフレ圧力が強まっている様子が見え始める。

また、同日に発表された11月の鉱工業生産は前年同月比+1.4%となり、前月（同+4.0%）から伸びが鈍化した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど経済活動の正常化による底入れが期待されるなかでも頭打ちの動きが続いている。幅広く消費財関連の生産に下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、こうした動きを反映して中間財関連や資本財関連など川上にかけて幅広く生産に下押し圧力が掛かるなど、全般的に生産活動が弱含んでいる様子が見え始める。なお、足下では製造業を中心に企業マインドは底堅い動きがみられる一方、生産活動については一進一退の動きが続いており、同様の展開で推移すると見込まれる。

図2 IN インフレ率の推移



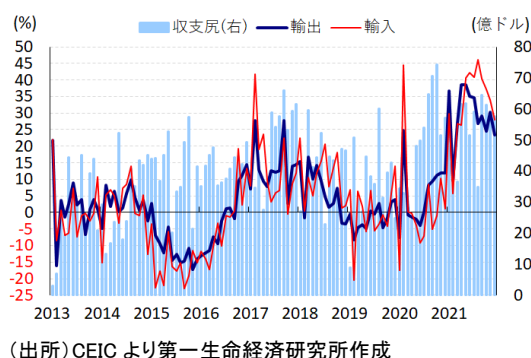
図3 IN 鉱工業生産の推移



[台湾]～世界経済の回復の動きを追い風に、主力の半導体などを中心に輸出は底堅い動きが続いている～

7日に発表された12月の輸出額は前年同月比+23.4%となり、前月(同+30.2%)から伸びが鈍化した。前月比も▲1.1%と前月(同+5.6%)から6ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きが続いた流れに一服感が出ているものの、中期的な基調は引き続き拡大傾向で推移するなど堅調な動きが続いている。国・地域別では、最大の輸出相手である中国向けに底堅い動きがみられるほか、日本向けやASEAN(東南アジア諸国連合)向けなどアジア域内向けに堅調な動きがみられる一方、米国や欧州など主要国向けを中心に底入れの動きに一服感が出たことが重石になっている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連などを中心に堅調な動きがみられる一方、化学製品関連をはじめとする素材及び部材関連の輸出に下押し圧力が掛かっていること全体の重石となっている。一方の輸入額は前年同月比+28.1%となり、前月(同+33.8%)から伸びが鈍化した。前月比も▲1.3%と前月(同+6.9%)から3ヶ月ぶりの減少に転じるなど輸出同様に底入れの動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど堅調な動きが続いている。国・地域別では、日本からのほか、米国や欧州からの輸入は拡大が続いており、輸出の堅調さを背景に素材及び部材などに対する需要は堅調に推移している一方、中国本土のほか、中東など資源国からの輸入額に下押し圧力が掛かるなど、国際商品市況の調整の動きが輸入額の重石になったとみられる。結果、貿易収支は+57.67億ドルと前月(+57.12億ドル)から黒字幅が拡大している。

図4 TW 貿易動向の推移

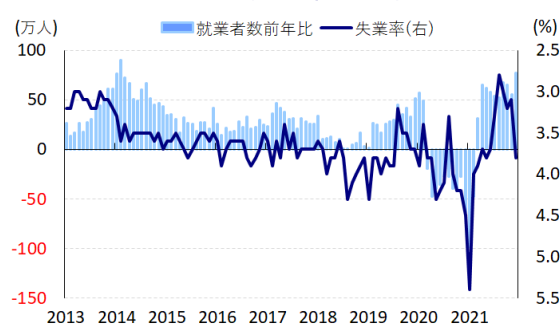


[韓国]～政府による高齢者を対象とする雇用支援策が労働市場を下支えしている状況は一段と鮮明に～

12日に発表された12月の失業率(季調済)は3.8%となり、前月(3.1%)から0.7pt悪化して7ヶ

月ぶりの水準となっている。失業者数は前月比+18.9万人と前月（同▲1.0万人）から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も減少ペースが鈍化するなど底打ちしている様子がうかがえる。年代別では、若年層や働き盛り世代を中心に減少している一方、60代以上の高齢層で大幅に拡大しており、高齢層を中心に労働市場に参加する動きが強まったことが影響している。事実、労働力人口は前月比+2.5万人と前月（同+0.2万人）から4ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど底入れしている上、年代別では60代以上の高齢層で労働力人口が大幅に拡大している。この背景には、政府が新型コロナ禍対応を目的に高齢層を対象とする雇用拡大の動きを強めていることが影響している。一方の雇用者数は前月比+6.3万人と前月（同+3.1万人）から11ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど底入れの動きが進んでいる上、年代別でもすべての年代で拡大している。ただし、雇用形態別では正規雇用を中心に底堅い動きがみられる一方、非正規雇用を中心に調整圧力がくすぶる。なお、労働力人口の底入れを反映して労働参加率は63.4%と前月（62.8%）から+0.6pt上昇するなど労働市場への参加意欲は高いなど、政府による政策支援が雇用環境を下支えしている様子がうかがえる。

図5 KR 雇用環境の推移

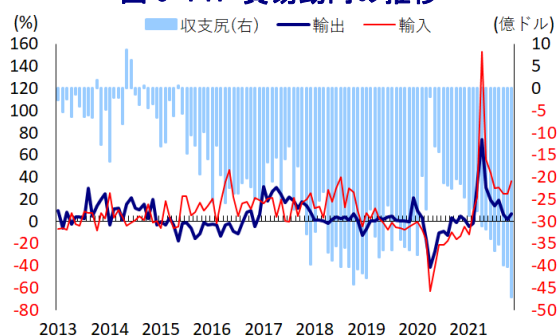


(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[フィリピン]～行動制限の緩和や世界経済の回復は輸出を押し上げるとともに、輸入も堅調で貿易赤字拡大～

10日に発表された11月の輸出額は前年同月比+6.6%となり、前月（同+2.0%）から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は3ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど頭打ちしてきた流れに底打ち感が出ている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の輸出が底入れの動きを強めているほか、鉱物資源関連の輸出も同様に底打ちしており、世界経済の回復の動きが続くなかで新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染一服を受けた行動制限の緩和による経済活動の正常化に向けた動きも輸出を押し上げている。一方の輸入額も前年同月比+36.8%となり、前月（同+25.1%）から伸びが加速している。前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど底入れの動きが進んでいる。電子部品関連を中心とする輸出の底堅さを反映して素材及び部材関連の輸入が堅調に推移しているほか、国際商品市況の高止まりの動きも輸入額を押し上げている。結果、貿易収支は▲47.06億ドルと前月（▲40.19億ドル）から赤字幅が拡大している。

図6 PH 貿易動向の推移

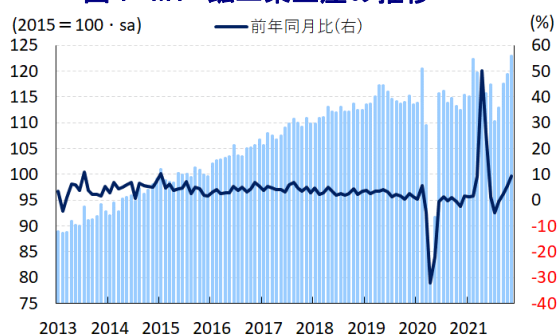


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～行動制限の緩和に加え、世界経済の回復の動きも追い風に生産活動に底入れの動きが強まる～

10日に発表された11月の鉱工業生産は前年同月比+9.4%となり、前月(同+5.5%)から伸びが加速した。前月比も+2.96%と前月(同+1.66%)から4ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど底入れの動きが続いている。製造業で生産底入れの動きが続いているほか、調整局面が続いた鉱業部門の生産にも底打ち感が出ており、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染一服を受けた行動制限の緩和の動きを反映して幅広い分野で生産活動が活発化している様子がうかがえる。製造業では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連のほか、金属関連や化学関連など幅広い分野で生産が押し上げられる動きがみられるほか、食料品や縫製品関連など軽工業関連の生産にも堅調な動きが確認出来る。原油及び天然ガス関連に加え、幅広く鉱業部門の生産も底打ちしており、世界経済の回復の動きも生産を押し上げている。

図7 MY 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。